

時事新報

左ノ一書ハ英國會衆六月廿七日附テ以テ同府在留ノ通
信者ヨリ送リ來リタルモノナリ篇中中國ヲ東洋ニ立ツル
者ハ英國ノ歡心ヲ得ルヲ大切ナリトノ議論ノ如キハ最
モ事實ニ適切ナルモノト思ハル 時事新報記者

英國ハ親ムベシニ謀ルベカラズ
軍ニ歐羅巴ト云ヘバ合一同体ノモノ、如ク思ハレハ其
ハ然ラズ各國獨立ノ体ヲ成シテ互ニ相對峙スルノミナラズ
中ニモ大國アリ小國アリ強キ者弱キ者其様一様ナラズ小國
ハ強大ニ制セラレ強大ハ小國ヲ壓ス歐洲ニ國力平均ナル者
アレハ其國力平均トハ各國互ニ其權ヲ均ウシ大小其力ヲ平
同スルコトアラズ唯強大ト強大トノ間ニ嫉妬競争ノ念斷ヘザ
ルカ故ニ小國ハ其間ニ介シテ僅カニ其獨立ヲ存スルノミ小
國ガ自力以テ獨立スルコトアラズ僅カニ大國他力ノ庇保ニ依
テ獨立スルノミ大國ガコレヲ庇保スルヤ小國ノ爲メ計テ
コレヲ庇保スルコトアラズ大國ガ自家一國ノ利ノ爲メニ
コレヲ庇保スルノミ例ヘバ和蘭、白耳義、羅馬尼亞、セルビ
ア、ノ如キ小國ガ大國ノ間ニ介シテ各安穩ニ其獨立ヲ維持
スルハ其國ノ兵力強キガ爲メアラズ大國ガ其國チ子トシ
テ愛スルノ實情アルコトモアラズ日耳曼ガ和蘭、白耳義ヲ并
吞セントスルノ意心アレバ復テ佛蘭西ガコレヲ押領セント
スルノ意心アリ魯西亞ガ羅馬尼亞ヲ押領セントスレバ據地
利ガ權ヲ南滿スルニ嫉妬心嫉妬ト相戦ヒ利ト權ト相争
ヒ其際自カラ國力ノ平均ヲ得ル者ナリ、サレバ此國力平均
ハ特ニ強大國ト強大國トノ間ニ行ハル、者ナレハ其大
國中ニモ自カラ差等アリ其強國中ニモ自カラ強弱アリテ其
地位同一ナラズ隨テ國力ノ權衡毎ニ其最大最強ノ者ニ偏倚
シ恰モ全歐ノ中心トナルコトナリ拿破崙第一世ノ存生中ハ歐
洲ノ權衡佛蘭西ノ一方ニ偏シ拿破崙第一世ノ死後ハ歐洲全體
ニ其影響ヲ及ボサレハ今ハ佛蘭西ハ歐洲ノ中心ナリシ
モ拿破崙ノ死後ハ佛蘭西ノ權勢日ニ衰ヘ彼ノ普佛戰爭後ハ殆
ト全ク地ニ落タリ反之後日耳曼ハ恰モ旭日ノ昇ル勢ニ
テ其威權日ニ益強ク今日歐洲國力ノ權衡ハ日耳曼ノ一方
ニ偏シ日耳曼ハ恰モ歐洲ノ中心ナリ「ビスマルク」公ノ一舉
一動悉ク歐洲全體ニ其影響ヲ及ボサレハ今ハ倫敦日々新
聞ノ電報ニ又通信ニ公ノ舉動ヲ觀セザルハナシ甚ダキハ
政治ニモ關係ナキ私事ヲ擧シテ世俗ノ歡ヲ買フ者アリ英
佛佛ノ如キ其國強大ナラザルモアラズ其威權強盛ナラザル
モアラズト雖モ其威勢ハ特ニ歐洲外ニ在テ歐洲内ニアラズ
佛蘭西ハ「ナポレオン」東京ニ「マダガスカル」ニ其威勢ヲ振
ヒ魯西亞ハ「アフガニスタン」ノ地方ヨリ英領印度ヲ眼ヒ英
吉利ハ今正ニ「埃及」ノ處置ニ苦心スル等此三大國ハ其國力
ヲ益ク歐洲外ニ向テ却テ内部ノ政略ハコレヲ「ビスマルク」
公ニ委任シテ辦理スル者ノ如シ公ハ又特ニ歐洲内ニ注
目シテ其外ヲ顧ミズ皆此三大國ノ外交政策ヲ袖手傍
觀スルノミナラズ佛蘭西ハ「コロチ」佛蘭西ハ「コロチ」

ノ全權ハ日耳曼ニ歸シ東洋諸國ノ事ハ英佛佛ノ專ニス
ル所ト爲ル日耳曼ハ歐羅巴ノ大國ニシテ英佛佛ハ東洋ノ強
國ナリ後來或ハ日耳曼ノ南滿ガ東洋諸國ニ往來輻輳スルコ
今日ノ英船ノ如クナルコトモアルヘシ其殖民地亞非利加ノ
海岸ニ拓クノ日モアルヘシト雖モ日下予輩未ダ其實勢ヲ視
ザルナリサレバ我日本ノ如キ東洋國ノ最モ若眼スベキ者ハ
英佛佛三國ノ舉動ニアリ近頃日耳曼ガ歐洲ノ中心トナリ其
威勢日ニ強キヲ視テ何卒其歡心ヲ買ヒ以テ我國權ヲ擴張セ
ント思フ者アルベケレハコレ大ナル誤見ナリ日耳曼ハ歐洲
ニ在テコソ強國大國ナレハ東洋ノ諸國ニ對シテハ殆ト縁ナ
キ者ナリコレガ歡心ヲ得ザレバト何程ノ事カアルコレヲ
度外ニ措テ差支ナカルベシ固ヨリ大國ノ歡心ヲ得ルハ願ハ
ザルコトアラズ大國ニ對シテ小國ノ歡心ヲ得テ其交
際ヲ親密ニスルハ誠ニ願ハシキコトナレハ其關係ノ厚薄遠近
ヲ察セザレバ近キニ疎シテ遠キニ親シク却テ國ノ大計ヲ
過ルコトアリサレバ日本人ガ勉メテ日耳曼ノ歡心ヲ得ントス
ルハ決シテ不可ナルコトアラザレハ其歡心ヲ得ントシ却テ
英佛佛ノ如キ東洋ノ近密ノ關係アル諸大國ノ歡心ヲ失フハコ
レヲ策ノ得タル者ト云フベカラズ日耳曼ハ疎シテ遠シク英
吉利ハ親シク近シテ近シク日本人ガ日耳曼ニ厚キノ情ヲ視テ英人
ハ如何ノ感ヲ爲スベキヤ其心ニ必ズ謂ハン日耳曼ハ歐洲中
ノ強國ナリト雖モ其權未ダ東洋ニ及ヘズ近頃日本人ガ頻ニ
日耳曼ノ歡心ヲ得ントシ勉強スレハ我英國ノ歡心ヲ得ザル
以上ハ更ニ其詮ナカルベシト且英國ノ宰相「グラッドスト
ン」氏ト首相「ビスマルク」公トハ其心事毎ニ相投セズ恰モ
阿羅漢ニ合ノ姿ナレバ英國ニテ自由黨在朝ノ間ハ兩國ノ交
際親厚ナラズシテ互ニ猜疑ノ念アルヲ免カレザレバ我日本
ニテ餘リ日耳曼ノ厚キ時ハ却テ東洋ニ大關係アル英佛
佛ニ疑心ヲ生ジ爲メニ其歡心ヲ失フノ恐アリ近頃佛蘭西ガ東
京ヲ押領セントシ時モ支那政府ハ頻ニ日耳曼ニ取リ込ミ勉メ
テ其歡心ヲ買ハントシ或ハ軍艦ノ製造ヲ日耳曼ニ依頼シ或
ハ日耳曼人ヲ聘シテ其士官トナス杯百方手ヲ盡シタレハ更
ニ其詮ナク却テ益佛佛ノ憤怒ヲ惹起シ遂ニ今日ノ事情トハ
ナレリ固ヨリ日耳曼ハ東洋ニ關係ナキノミナラズ却テ暗ニ
佛佛ノ外交政策ヲ以テ己レガ利トスル者ナレバ敢テ支那ニ
聲援スルコトナシ袖手傍觀唯其成行ヲ見物スルノミ最初若シ
支那政府チテテ勉メテ英國ノ歡心ヲ買ハシメ軍艦銃砲一切
ノ器具ヲ悉ク英國ニ注文シテ以テ其氣勢ヲ張リテラハ東京
事件ニ付テモ大ニ英國ノ輿論ヲ惹起シ爲メニ幾分ノ利ヲ得
シヤモ亦量ルベカラズ英國ノ在朝黨ハ自由黨ニシテ其平生
ニ主義トスル所ハ人類同權黨對等ニアリト雖モ單ニ天理
ノ同權論ニ訴ヘテ英國ノ輿論ヲ喚起スコト甚ダ難シ必ズヤ
利ノ一點ニ訴ヘテ一方ニ使職セザルベカラズ支那政府チ
シテ能ク此理ヲ會得シ最初ヨリ英國人ノ利慾心ニ訴ヘシメ
タラハ今日ノ如キ耻辱ヲ蒙ラザリシコトナラン其軍艦チ「リ
ー」氏ニ注文シ其銃砲チ「アー」ムストロンク」ニ使職シ其

士官ヲ英國ニ聘シテラバ當國ノ議院ニ於テモ支那ニ對シテ
好意ヲ表シ幾分カ支那ノ冤ヲ訴フルノ手蔓トナリシコトナ
ン或人曰ク如斯些細ノ事ニ依テ國ノ大計ヲ計ラントス
ルハ想像論ノ甚ダシキ者ナリト子コレニ答ヘテ曰ク否然ラ
ズ心波情海些細ノ事ヨリテテ大事ヲ生ズルハ世ノ中ノ常態
ナリ今コレヲ實際ニ証センニ佛蘭西ガ愈東京ヲ押領シテ支那
政府ニ對シテ償金ノ談判ニモ取リ掛クントスル様ノ風説頻ニ
リケレバ支那政府ハ急ニ兵備ヲ整ヘ止テ得ズンハ廣東河口
ヲ塞ギ一切船舶ノ出入ヲ禁セントセシ其際ニ英國ノ輿論忽
チ沸騰シ大ニ佛蘭西ノ政界ヲ誹議セシハ何故ヤ佛蘭西ノ所置
天理人道ニ戻リシガ爲メナルカ其處置同權對等ノ主義ニ背
馳スルガ爲メナルカ斷ツテ然ラズ其原因ハ英國ガ自家通商
ノ利ヲ失フコトヲ恐レテナリ即チ支那最後ノ政界暗ニ英國
人ノ利慾心ニ訴ヘテガ故ナリ又前年我日本ガ「リ」氏ハ
軍艦ノ製造ヲ依頼セシヨリ「リ」氏ハ日本ニ對シテ大ニ其友情
ヲ表シ昨年ノ議院開會中ニモ兩三度外務當局者ニ向ヒ日本
ノ條約改正ハ如何ナリシヤ杯百問セシコトアリ故ニ自
カラ世人ノ注意ヲ喚起シ幾分カ其改正ヲ促ガスノ手蔓トモ
ナリシコトナレハ此度ノ新造軍艦ハコレヲ「アー」ムストロン
ク」ニ注文シ「リ」氏ハ依頼セズ大等ノ差違ニテモア
ルカ氏ハ今年ノ議院ニ於テ未ダ一度モ日本條約改正ノ質問
等ヲ持テ出シ「リ」氏ノ獨リ「リ」氏ノ薄情ナルコト
ヲ天下人心ノ同情ナレバ敢テ咎ムルコトモ及バザルコトナレ
ハ此一事ヲ視テモ些細ノ事ヨリテ一國ノ大事トナル所以
ノ理ヲ知ルコト足ルベシ支那政府ガ最初ヨリ東洋全權ナル英
國人ノ利慾心ニ訴ヘザリシハ誠ニ失策ノ極ト云フベシ免
角ニ歐洲チ一體ノモノト認認スル時ハ測ラザルノ失策ヲ履
シ遂ニ容易ナラザル場合ニ立至ルコトアルベシ東洋第一ノ日
本人タル者ハ宜シク歐洲各國ノ情態ヲ詳カニ深ク其關係
ノ輕重如何ヲ案シテコレガ方向ヲ定メザルベカラズ

電報の大憲ハ
北京總理衙門
海軍總長スル
没入ヒントスル
ルニ於テハ支
々
此文中東京海防
ある佛軍が鄭松
して即ち此事を
ク未ダ十分に詳
破裂し會國空が
○佛軍欽使に向
どて我輩が傳聞
清佛談判ノ破
セリ
右の報知は其確
待の鎮安は廣西
○福州の形勢
破裂し清國全權
あり使臣去り談
行ふ可況か果し
も益増に接近し
しく確據を遂ひ
お因ての事の此
下世人の注目と
の近報も據て左
福州は北京を去
那の南部福建省
よして福州府の
二十二年英國と
總督(今の總督は
も亦多く支那南
的關係漸く困難
辨福建海防事宜
司らしたり然
せんとするは兆
せんし新に其砲
軍聞し新に其砲
破り大砲を置き
集し廣西雲南兩
千人を遣したれ
榮りて府民の騷
の横に乘して搶
箇處の居留地に
に七十人を分派
畫右の如くなれ
程の取なく特は

○八月十九日上海發 北京政府ハ佛蘭西軍艦支那近海ニ在
間ハ一切の談判を拒絶する旨を告げたり○清佛兩使臣の談
判は停止せり佛蘭西公使は本國政府ニ對テ訓令を請ひたれ
一兩日中に確答ある可シ○支那政府ハ佛蘭西の佛兵を退
拂ハんが爲メ多量の兵卒を臺灣に送還するの風説あり
○八月十二日福州發 臺灣淡水港に水雷火船を以テ充
居れり
○八月十二日北京發 清國皇太后は近頃宮中にて總理衙門
大臣及び内閣大臣の兩特別會議を開きたるが太后と大臣と
の決議は未だ世に公けぬなり
○八月十二日天津發 一般の思考する所よテ李鴻章地位
ハ頗る危殆ありと云へり
○上海より日電報 昨日上海より東京の電報方へ達したる

電報

雜報